おかやまトピック　Vol.4

『3 年ぶりの・・・』



私達、岡山県柔道整復師会の最も分かりやすい社会貢献にマラソン大会でのケアブースがあります。

しかしコロナ禍の 3 年間、密を避けるために大規模な行事は全て中止、当然マラソン大会も開催されることはありませんでした。

その間でも、各大会の関係者の方々は何度も開催に向けて準備をしておられ、それに伴い本会の小笠原ボランティア部長も開催を信じて活動をしていました。しかし毎回「残念ながら今回は中止とさせていただきます」の連絡が入り、何度も淋しい思いをされたと思います。



この期間で感じたことは、私達がケアブースでランナーの皆さんをサポート出来たのは、マラソン大会の関係者の皆さんのおかげだったという事でした。



「私達の持つ技術が役に立つという事を、分かりやすく感じさせてくれるチャンスをいただいていた」と気付かされ、改めて大感謝です。



そんな感謝の気持ちを忘れずに、大会関係者の方、ランナーの皆さん、そして私達、みんなが喜べるように、WIN-WIN-WIN の関係を築けるように、これからも活動したいと思っています。

さて令和 4 年岡山県内では、夏くらいからスポーツ公園や道路などで元気の出る色のジャージを着た人達が現れはじめ、その数は右肩上がりで増殖。そして 11/13 岡山県総合運動公園でピークを迎えます。当日は神様のイタズラか、嬉し涙か『晴れの国』らしからぬ雨。それでも約 11000 人のランナーが 3 年ぶりの笑顔で集結し岡山市内に元気を振り撒いてくれました。

そして、元気いっぱいで岡山市を走り回ったランナーの皆さんのケアをするのが私達の役割です。当日は緊急搬送される方がいつもより多く、また、雨のせいか、いつものケアブースよりも難題が多かったように思います。そんな中で大会関係者の方に「日本一のケア」と最大限の評価をいただきましたことは、私達にとっての誇りとなります。



今回も一緒にケアブースで活動してくださいました(公社)岡山県鍼灸師会、(福)岡山県視覚障害者協会の皆様、大変ありがとうございました。









11/13 夕刻に近くのコンビニでレジに並んでいると、私の後ろに達成感に溢れた顔とそれとは対照的に引き摺る両脚、ビールのロング缶を 2 本も抱えた人が・・・。「お先にどうぞ」と声をかけると軽く会釈をしてくださいました。その人の背中を見ながら、心の中で呟きます「ありがとう、お疲れ様でした」「三年ぶりの乾杯ですね、今日の一杯は美味いよー」